

時事新報

今回の大演習に就て
は過日の時事新報にも略か説を述べ其後報欄内にも
屢に記載する所ありしが今更ニ開く所に據りて其目的
及び順序方法ありと云ふものを記すれば

陸海軍兵力の一線に使用するの實験
陸兵を海軍に及上陸せしむるの實験
此他又陸軍の行軍、宿營、給養及陸軍將校をして
命令、部署、判断、決心、若くは陣地の設定、地形の
利用、豫備隊の配布、使用等に習熟せしむるは勿論
なり

國防の計畫は參謀本部の常に拮据する所にして百戦の
事變に應ずるの方皆其運籌畫策を経て已ニ確定する所
ありと雖も尙席上の規畫に止る者あるが故に其果して
能く實際に適するや否やを斷斷すべからず乃ち此大演
習を施行する所以あり

陸軍若干師團若千旅團を以て演習兵と爲し之を東
西兩軍に別ち其一を侵入軍に擬し一を防禦軍に擬
す

兩軍に類つて一般方略なるものを以てし彼我一般
の情況を認識せしむ

又此特別方略を類つてや軍に一回止まる者に非
ず敵の情況の變換する毎に逐次之を示して以て
戰況を進歩せしむる者なり

各軍に類つて特別方略は唯敵の情況を示し又高等
司令部の命令を載せて各部隊の當るべき爲すべき
任務を指示する由而して其任務を遂げるに如何
なる方法を以て實施するか一に各部隊長の計
畫に任すと云ふ又此任務を遂げる途には千變萬
化の情況を生じ測り得られざる陣變に遭遇する
ものにして此陣變を排除し其任務を遂げるは即
ち指揮官の能力なり

戰國の始まるや審判官は其陪從將校と共に親しく
兩軍の間を奔走して兩軍各隊作戦計畫の當否を實

視し或は之を實戰の情況に照し兩軍各兵の進退を
指示するありと

否の意見を得し之を長官に上申するとなりと云ふ
右は全く傳聞の儘を記したるものなれども演習の方法
順序は先づ大抵斯の如きものと想像して實際に大なる
相違もなかる可し此處を見ても近時我國兵制の進歩は
實に驚くべき進歩たるものと云はざるを得ず古來我戦法
の模範とも云ふ可きは源朝の富士の戦術を始めとし
其他は甲越合戦ぐらゐるものにして兵書と稱して事ら
軍學者中に行はるるものは唯中陽軍書の一部あるのみ
の次第されども當時の軍法と稱するものは其奥義の如
何に指はらず形に就て詳すれば所謂一騎打の戦法にし
て誠小兒の戯に過ぎず爾後幾百年徳川の近代に至
るまでも戦法は依然たる小兒の戯にして進歩も成長する
と云ふ可し開國以來三十年、王政維新を距るしよと
僅々廿餘年の間に諸般の制度全く其面目と一新したる
中よ就て兵制の一事は特に改良進歩の著しきものに
して西市の戦争の如きも兵制の一點より見れば不幸中
の幸とも云ふ可きか、之が爲めに我兵制上に幾多の經
験を興へ幾多の改良を促し彼れ是れは事情よりして逐
に今日の進歩を致したるは疑ふ可らず我輩の所見に於
て本來國力の大小實富は別問題として單に兵制進歩の
度のみを比較すれば決して西洋諸國の下に在らざる可
しと信するものなり左れば我國の兵制は僅々十數年の
間に小兒より成長して直に大人の群に入り其成長の速
なるには何人も耳目を驚かすべしならん即ち今回の演
習は其進歩の實を實際に試験し更に其上の進歩を期せ
んとするものにして決して偶然からざるを知る可きな
り然り而して古今兵制上の變遷は斯くの如く夫れ非常
なりと雖も遂に千百年來依然として不變せざるものは我
國の士氣にして凛然たる日本男兒の武勇は古來今に至
るまで未だ曾て一日も其色を改めたる事なし此武勇の
精神こそ即ち我國の特色にして日本帝國萬世獨立の骨
髓たるものあれば我輩は我兵制上の進歩の速なるを祝
すと共此精神の今後長しあへに渝らずして帝國獨
立の運命萬々歳あらん事を祈るものあり

○板垣伯の一行は近日の内奈真へ赴きしに同地
の有志者は夫れく準備に奔走せし居るに何者の惡戯
にや同伯が奈真へ着する時は爆彈を投ずべし杯言觸
すものありと

○是恒眞樞氏 一昨日非職とありし大藏主税官是恒眞
樞氏は多分日本運輸會社に入りて社長となるならん

○局長會談 大藏省にては渡邊次官を始め各局長とも
昨十五日午後二時より同六時迄大臣官房會談室に於
て會談を開きたるが多分一兩日中に發表すべき改革案
を議したるならんと云ふ

○速射砲 近々日本海へ回漕あるべき軍艦千代田に備
付る速射砲は目下英國にて製造中あるが其精巧東洋に
冠たるものありと云ふ兩三日日前横濱正金銀行は其筋の
命に依り右第二回拂込金八千六百三十圓を在英國河瀬
公使へ宛て電信爲替を以て送付したるよし

○内閣官報局 同局は今般内閣の所轄を離れ常盤橋内
印刷局構内の幾分を同局所轄に組織へ其内に於て國會

○外人試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

右の男は立ち去りしが後
へ奮奮濟濟として我家を出
掛るど向ふより昨日の星
さいか且那は待ちくぐら
兩國の機屋某方に待て御
畏まり貴様の迎に來た所
村某は只管其過刻を詫言
へ通り向ふを見れば黒の
ンを着た計りな
け寛かに上座をわがら
あらん少し下て茶地三ツ
士は其御供の方にやあら
今花骨牌を賭し居る最中
かへ兼て御注文の火銃目
恐るゝ此度は御用仰付
申上れば右の殿と見ゆる
カレノ此黒の中に金
少し高いと云何に一ツ四
何分念入れて頼むよマア
々々首尾に某は十分に喜
遊を詠め居りしが根が
を御捨てさる御手際
云ひ居るうち脊膚着たる
首尾縮く百圓負けた今
ちくださいと云ひながら
子にて某に向ひ小聲にて
うご何さ負けたとて向
し遣つて見て負けそうホ
早や酒の酔もめぐりた
鉢の方で十分理合せが附
りしが彼の使に來りし思
るより忽ち某が勝ち出せ
に十圓二十圓五十圓と成
の勝となり終に金にして
請求せしに且那は少し
ン取るより早く中より一
出しツア之を渡すから出
玉の五十圓、正金にして
可しと云はれ某は一切
面にて五百圓を受取る
乘り歸宅せしは夜の八時
女房に打明け賣溜より
上向とて中々足る可く
りむするやらヤソトの車
に前の籠屋に捕せしは目
し男トノ一人居り大藏
弄直しするとて橋橋まで
五十圓は持参せしと云
差出すを受取り夫ではハ
五百圓あるは一所に入
くれと立てカバンを明け
むよと出掛けしと待ア
ならんとしてまぶ歸と
中を改むるよはとも如
よ仰天して物とも云は
へ、先刻の御客様があら
りになりましたからと

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日の夕刻某は店先よて帳合を
として居りしに年頃三十前後の羽織を着たる商人風
の男入り來り抽者は本所の某華族より御願を受けて袋
りたるが周圍を窺り研ぎ出したる火銃三十餘挺注文交
したしと云ふに主人某は好き客筋と心に喜び御好み大
第念を念を入れ安直に御引受申さん、然らば明日早々
斯くくの場所を持ち來られよと委細長りぬと相談登ひ

○華族會館 以手狹に付近々他に移轉するよし
○利根運河の通船 同河開鑿工事竣功し既に千葉縣
の許可を得たるよ付來る二十五日より通船を開始す
よし

○外入試育を石黒氏に托す 長野縣下埴科郡鹿代町の
養蠶家石黒金十郎氏は既に十一年間の工風と経験とに
依りて完全なる蠶室を建築したる所昨年の夏獨逸人フ
ルナナンドクワインウヰヒタル氏が養蠶業視察と
して同縣下を巡遊したる際石黒氏の蠶室を見て其精妙
なるを嘆賞し眞實に模範を切望したるに依り石黒氏
は早速眞實に其模範を托し且二十餘圓の金を贈りて
内部に至るまで一切細密なる六尺有餘の模範を造り長
野縣廳の手を経て清國津波なる同氏の許に送附したる
に同氏は大に悦び謝儀のためとて養蠶上の著述本に繼
切なる贈物を添へて送り越したるよしなるが今度佛國
養蠶公院養蠶の蠶種十種を石黒氏の許に送り越したる
完全なる養蠶室に於て試育の上其成績を報せられたし
と依頼し越したるに付石黒氏は大に面目を施したるを
喜び遠からず掃立ての上得意の手並を盡して試育せん
と養生の時期を待ち居るよし同地よりの通信に見ゆ

○労働時間府下第一の職工場 過般來其筋に於て東京
府下の各職工場労働時間を調査せしに最も長きは營利を
主とする民有の工場なるべしと思ひの外其第一は印刷
局にして當今男工十五時間女工十三時間なりと

○尾物物産市場取引高 本年二月中物産市場に於ては
取引高は各産物計八萬二千六百六十七反にして此の價金
四萬四千四百六十七圓十二錢二厘なりと云ふ今之れを
殊別すれば左の如し

絹織物 千六百十九反 四千六百七十五圓二錢六厘
絹綿交織 一萬六千八百 一萬三千八百六十七圓十一
木綿織 四十三反 二萬五千九百二十四圓九角
五反 八錢四厘
○候補者周旋の詐偽 議員志望の熱高まるに連れ是を
奇貨として詐偽を行ひ法網を脱するの徒を生じたり此
徒は官廳の一二等以上の屬少々富有なる者を狙ひ郷里
なる其親戚等の深書を以て有志總代となりて其宅に到
り我地方の代議士は貴殿と我々を於て粗ば候補者と決
定したり就ては選挙も間近なるに付貴殿に於て御承諾
ならば十分に競争せざるべからずとの口實にて運動費
を出さしめ歸國の後別に奔走するものと云ふ
○カバンは無一物 本所區外手町に此頃二階附二間半
間口の店を新築して小體又商入器器商田村某(五十前
後)と云ふ者あり去る十日